

妃漢ノ李夫人モ是ニハヌギシ物ヲト云ヘバ見レ共見レドモ彌珍方ナルモ理哉トゾ申ケル

〔平家物語〕妓主事

まらびやうしのじやうず一大出來たり加賀の國のものなり名をばほとけとぞ申ける年十六  
とぞきこえし略中ほとけ御せんはがみすがたよりはじめてみめかたち世にすぐれこゑよく  
ふしもじやうずなりければなじかはまひはそんずべきまゝるもおよばすまひすましたりけ  
れば天道相國清盛舞にめで給ひてほとけにまゝるをうつされけり

〔源平盛衰記〕清盛息女事

御嬢盛女平清八人御座ケルモ皆取テ三幸シ給ヘリ略中五ニハ近衛殿下基通公北ノ政所形嚴ク  
シテ水精ノ玉ヲ薄衣ニ褰タル様ニ御衣モ透過テ見ヘケレバ父相國モ異名ニハ衣通姫トゾ  
バハレケル殿下モ角ト仰ケレバ北政所モ我御名ト心得テ答マシクテハ互ニ笑給ケリ

〔北條五代記〕八丈島渡海の事

むかし治承の比俊寛僧都康頼入道丹波少將三人鬼海が島へながされし事古き文にみえたり  
此島の男女の肴様髪をけづらずゆひもせずつくものごとくかしらにつかぬいたゞき色黒く  
眼ひかり山田に立るがゞしに似たり略中一年江雪齋八丈島住置として渡海の時節供して渡  
りたり此島の事あらかじめ物語をば聞しかど人の語の様にはよもあらじと思ひしに女房色  
白く髪ながふして黒し形たぐひなふ羊爪はづれいとやさしくかほばせ白つきあひくしく  
上々の絹をかさね著て立居ふるまひ尋常に愛敬有てむつまじさを一日見しより扱も我此島  
に來りがる美女にあふ事いかなる神佛の御引あばせぞやと我身をかへり見る

醜人  
醜男

〔補中抄〕くめちのぼしいほし

顯昭考云略中行者小夜鬼神をめしつかひて水をくみ薪をひろはしむまたがほぬものなし